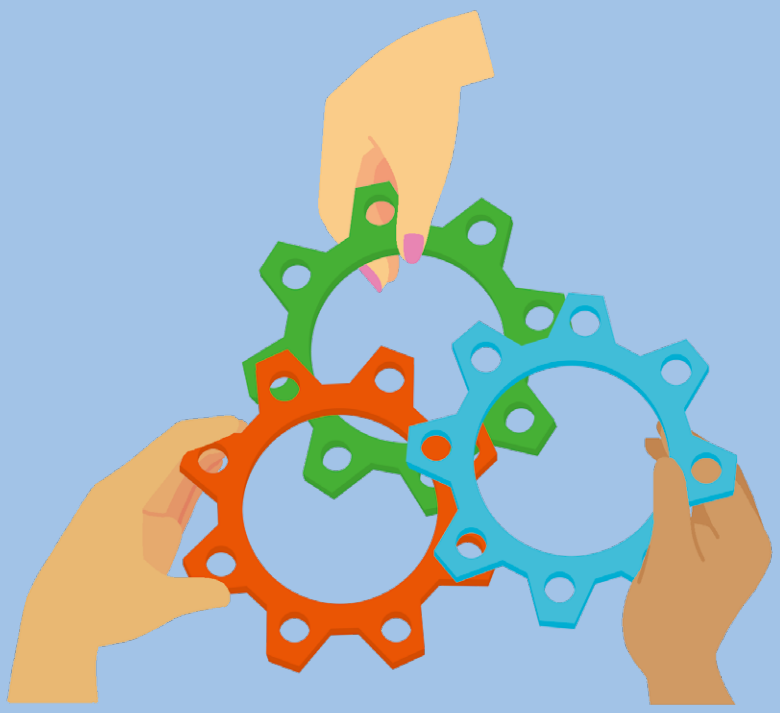
男女がともに活躍できる社会へ
内閣府
男女共同
参画局

"Kyodo-sankaku"
Number 149
October 2021
Japan Cabinet Office
10

共同参画

特集1 ／令和３年度 性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査結果

特集２／「夏のリコチャレ2021～理工系のお仕事体感しよう！」を開催
～女子中高生等の理工系分野への進路選択を応援～



ELIMINATE UNCONSCIOUS BIAS

男女共同参画の総合情報誌 内閣府編集

性別による無意識の思い込みに関する調査研究に関わって
アンコンシャス・バイアスはみんなの問題

荒金雅子
Masako Arakane
㈱クオリア代表取締役社長

男女共同参画社会を実現するための重要なキーワードのひとつ、「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見・思い込み）」への関心が高まっています。

アンコンシャス・バイアスは、「自分では気づいていないものの見方やとらえ方のゆがみや偏り」を言います。物事を大枠でとらえ瞬時に判断し効率的に処理するうえでは役に立つことも多く、誰もが持っているものであり、それ自体はよい、悪いというものではありません。けれど、アンコンシャス・バイアスに気づかずにいると、自分の正しさを絶対だと思い込み、勝手に決めつけたり、価値観や行動の押しつけにつながり、相手を傷つけたり関係性に悪影響を与えたり、時には自分自身の可能性を狭めてしまうことにもなりかねません。女性活躍推進の制度や仕組みをいくら整備してもなかなか望む成果につながらないのは、アンコンシャス・バイアスへの対応が不足しているからだとも言えます。

アンコンシャス・バイアスが起きる要因は脳の認知機能にありますが、生育過程における経験や見聞きしたことなども強く影響しています。古くから続く慣習やしきたりの中には、今の時代にあわなくなったものも多く、価値観やライフスタイルが多様化する中で違和感を持つ人も増えています。

このたびの「性別による無意識の思い込みに関する調査研究」では、女性に家庭責任や補助的役割を求めるアンコンシャス・バイアスが根強くある一方、「男は仕事をして家計を支えるべきだ」「共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ」との意識も、全体的に強いことが明らかになりました。特に20代では男女差が大きく、女性は否定的な一方、男性により強くその傾向がみられました。さらに、誰から言われたかを聴くと「父親」や「男性の知人・友人」からが多くなっています。NPO法人ファザーリング・ジャパン理事の西村創一朗さんは、「男性が稼ぎ頭として家族を支えるべき」という固定観念を「大黒柱バイアス」と呼んでいます。男性が、自分自身に対して大黒柱バイアスを強く求めることが、「女性は家事・育児・介護を担うべき」という、女性に対する「家庭役割バイアス」を強化しているとも言えそうです。

アンコンシャス・バイアスは、あなたの、私の、みんなの問題です。まず自分の中にある「内なるアンコンシャス・バイアス」に気づき、それにとらわれない、周囲に押しつけない、という意識を持つことが大切です。

今回の調査結果が、広く地域や企業・組織、教育現場の中で活用され、アンコンシャス・バイアスにとらわれず、誰もが活き活きと活躍できる社会を作る一助となることを期待しています。

"Kyodo-sankaku"

共同参画

10

October 2021
Number 149

目　次
Contents

Special Feature

特集 1 Page.2
令和3年度
性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)
に関する調査結果

特集 2 Page.6
「夏のリコチャレ2021～理工系のお仕事体感しよう!」を開催
～女子中高生等の理工系分野への進路選択を応援～

Topics

行政施策トピックス 1 Page.8
G20で初となる女性活躍担当大臣会合の開催について

行政施策トピックス 2 Page.10
科学技術政策担当大臣等政務三役と
総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合

行政施策トピックス 3 Page.11
日ASEAN女性スポーツ協力～日本からASEAN諸国と共に～

News & Information

ニュース＆インフォメーション Page.12
女性デジタルアーカイブシステム
「女性史年表」更新及び「戦時下勤労動員少女の会資料」公開について
ほか

今月号の表紙

思いこみにとらわれない3人の歯車が合わさって
物事が上手くいく様を表現しました。

公式Facebook
男女共同参画局 Facebook
https://www.facebook.com/danjokyodosankaku

公式ホームページ
内閣府男女共同参画局
Gender Equality Bureau Cabinet Office
https://www.gender.go.jp

特集1

Special Feature 1

令和3年度 性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査結果

内閣府男女共同参画局総務課

内閣府男女共同参画局では、第5次男女共同参画基本計画（令和2年12月25日閣議決定）及び重点方針2021に基づき、性別による固定的役割分担に関する無意識の思い込み、いわゆるアンコンシャス・バイアスの解消に取り組んでいます。

この度、アンコンシャス・バイアスについて家庭・コミュニティシーン、職場シーンに焦点を当てた測定項目を設定した上で、世代間での意識の差や決めつけられた経験等の調査を実施いたしました。

調査対象は、20代から60代までの10,330人（男性5,069人、女性5,165人、その他96人）とし、世代によるアンコンシャス・バイアスの意識の差や、同世代でも性別によっての違いはあるか、といったことなどを調査しています。

調査の中で、各設問中「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の選択肢を選択した割合がアンコンシャス・バイアスの割合ということになります。以下、具体的に見ていきます。

調査結果はこちらで閲覧、ダウンロードできます

URL https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/seibetsu_r03.html

1　性別役割意識（全体）

本調査では、家庭・コミュニティシーンと職場シーンでの性別役割、その他性別に基づく思い込みの36の測定項目について、最初に自分の考えにあてはまるかどうかを聞き、その後、性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験を聞きました。

測定項目について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の4段階で聞いたところ、1つでも「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合は回答者全体の76.3%で、多くの人にアンコンシャス・バイアスがあることがわかりました。

一方で、「アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）」という言葉の認知度は、21.6%に留まっています。

下の表は、性別役割意識について、男女別の上位10項目について調べた結果です。男女共に、上位2項目は、5割前後の高い割合となりました。上位10項目を男女で比較すると、

性別役割意識

（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」の合計）
男女両方で上位10位に入っている項目

男性　上位10項目		回答者数：5,069　(%)
1	女性には女性らしい感性があるものだ	51.6
2	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	50.3
3	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	37.3
4	女性は感情的になりやすい	35.6
5	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	31.8
6	男性は人前で泣くべきではない	31.0
7	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	30.3
8	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	29.8
9	家事・育児は女性がするべきだ	29.5
10	家を継ぐのは男性であるべきだ	26.0

女性　上位10項目		回答者数：5,165　(%)
1	女性には女性らしい感性があるものだ	47.7
2	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	47.1
3	女性は感情的になりやすい	36.6
4	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	30.7
5	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	23.8
6	共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	23.2
7	家事・育児は女性がするべきだ	22.9
8	組織のリーダーは男性の方が向いている	22.4
8	大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	22.4
10	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	22.1

全体的に男性の方が高い割合となりました。測定項目全体の中で男女差が大きく開いたのは、「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」（男性37.3%、女性22.1%）、「男性は人前で泣くべきではない」（男性31.0%、女性18.9%）、「家を継ぐのは男性であるべきだ」（男性26.0%、女性15.6%）、「男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ」（男性20.2%、女性10.3%）といった「男性は～すべきだ」の４項目でした。

2　性別役割意識（シーン別）

下の表は、性別役割意識を、家庭・コミュニティシーン、職場シーンにおいて男女それぞれ上位５項目についてみたものです。家庭･コミュニティシーンでは、女性より男性の方が、仕事と家事の分担に関して性別役割意識が強い結果となりました。

（１）性・年代別～50-60代の男性傾向～

年代別では、男性50-60代で、性別役割意識が強く、例えば、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」の項目では、男性20代・30代は約41%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答したのに対し、男性50代は55.7%、60代は63.5%と、男性でも年代間で大きな意識の差が見られました。この世代は、家庭では父親として、職場では管理職として若い世代に影響力のある立場であることが多く、アンコンシャス・バイアスの気づきの機会を提供し、理解を促すことで、アンコンシャス・バイアス解消への一歩となることが考えられます。

（２）性・年代別～20-30代の男女の差～

20-30代の若い世代における男女の意識にギャップがあることもわかりました。「共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ」では、20代で8.4ポイント差、30代で7.9ポイント差、「家事･育児は女性がするべきだ」では、20代で6.8ポイント差で男性の方が高い割合となりました。若い世代の男女における性別役割意識の差は、結婚生活における価値観の違いとなることになるとも考えられ、晩婚化や未婚率に影響している可能性があります。

（３）職場～性別・役職別の差～

職場シーンに目を移してみると、職場の役割分担に関する項目は、全ての年代において、女性より男性の方が性別役割意識が強く、「同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ」では、特に20-30代男性の性別役割意識が強い結果となりました。他に、「男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ」「女性の上司には抵抗がある」でも、年代に関わらず男女間で意識の差が大きくなりました。役職別でみると、役職が高いほど、性別役割意識が強い傾向がみられました。ここでは、20-40代と50-60代の「役員・部長（代理）クラス」など役職段階での比較もしていますが、20-40代の方が、性別役割意識が強い傾向がみられました。

性別役割意識〈シーン別〉

（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」の合計）

●家庭・コミュニティ

男性　上位５項目	(%)
男性は仕事をして家計を支えるべきだ	50.3
デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	37.3
男性は結婚して家庭をもって一人前だ	30.3
共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	29.8
家事・育児は女性がするべきだ	29.5

女性　上位５項目	(%)
男性は仕事をして家計を支えるべきだ	47.1
共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	23.8
共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	23.2
家事・育児は女性がするべきだ	22.9
デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	22.1

●職　場

男性　上位５項目	(%)
育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	31.8
組織のリーダーは男性の方が向いている	25.7
受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ	25.1
大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	23.5
職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い	22.2

女性　上位５項目	(%)
育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	30.7
組織のリーダーは男性の方が向いている	22.4
大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	22.4
受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ	20.1
職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い	16.9

3　性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験

下の表は、「直接言われた経験」と「言動や態度から感じた経験」についての上位10項目となります。全体的に「直接言われた経験」よりも「言動や態度から感じた経験」の方が、割合が高くなっています。また、男性より女性の方が、性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験があると回答している割合が高くなっています。

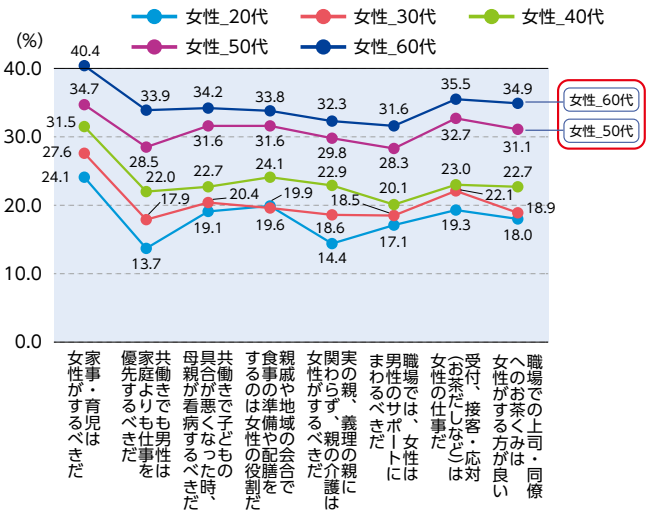
直接言われた経験では、「女性は感情的になりやすい」など感情に関する考えも上位に入りました。

女性についてみると、「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」「家事・育児は女性がするべきだ」「受付、接客･応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ」「職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い」の４項目について、「直接言われた経験」も「言動や態度から感じた経験」も多い結果となりました。

性・年代別でみると、特に、50 - 60代の女性で性別に基づく役割や思い込みの決めつけを感じてきた割合が高くなっています。

直接ではないが言動や態度からそのように感じたことがある

〈女性・年代別〉



男女両方で上位10位に入っている項目

●直接言われたり聞いたりしたことがある

男性　上位10項目		(%)
1	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	14.2
2	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	13.6
3	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	13.1
4	男性は人前で泣くべきではない	12.5
5	女性には女性らしい感性があるものだ	11.5
6	女性は感情的になりやすい	11.3
7	家を継ぐのは男性であるべきだ	11.1
8	家事・育児は女性がするべきだ	9.4
9	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	8.8
10	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	8.7

女性　上位10項目		(%)
1	女性は感情的になりやすい	19.9
2	女性には女性らしい感性があるものだ	17.2
3	家事・育児は女性がするべきだ	16.9
4	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	16.3
5	受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ	15.7
6	家を継ぐのは男性であるべきだ	15.4
7	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	15.1
7	職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い	15.1
9	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	14.9
10	女性は論理的に考えられない	14.0

●直接ではないが言動や態度からそのように感じたことがある

男性　上位10項目		(%)
1	家事・育児は女性がするべきだ	22.5
2	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	21.3
3	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	20.5
4	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	20.2
5	受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ	19.6
6	女性は感情的になりやすい	19.5
7	女性には女性らしい感性があるものだ	19.4
8	家を継ぐのは男性であるべきだ	18.7
9	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	18.6
9	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	18.6

女性　上位10項目		(%)
1	家事・育児は女性がするべきだ	31.8
2	受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ	26.7
3	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	26.2
4	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	26.0
5	共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	25.8
6	職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い	25.3
7	女性は感情的になりやすい	24.3
8	家を継ぐのは男性であるべきだ	23.9
9	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ	23.8
10	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	23.6

4　性別役割を感じさせた人

性別役割を言ったり、言動を感じさせた人

男性		36項目中
父親	1位に上げられた項目数	27項目
男性の知人・友人	2位に上げられた項目数	25項目
男性の職場の上司	3位に上げられた項目数	14項目
母親	3位に上げられた項目数	10項目

女性		36項目中
男性の職場の上司	1位に上げられた項目数	13項目
配偶者・パートナー	1位に上げられた項目数	10項目
	2位に上げられた項目数	14項目
父親	1位に上げられた項目数	7項目

性別役割について、「直接言ったり、言動や態度から感じさせた」人をみていきます。

男性に性別役割を感じさせたのは、「父親」が36項目中27項目、「男性の知人・友人」が同25項目と非常に多く、家庭コミュニティシーン、職場シーンにかかわらず影響を与えていることがわかりました。

職場シーンにおいては、男女とも「男性の職場の上司」から性別役割を感じさせられた経験があるとの回答が多くありました。

女性に感じさせた中には、「配偶者・パートナー」からも性別役割を感じさせられたとの項目数も多く上げられています。

全体的に、男性側から性別役割意識を感じさせられたとの回答が多い結果となりました。

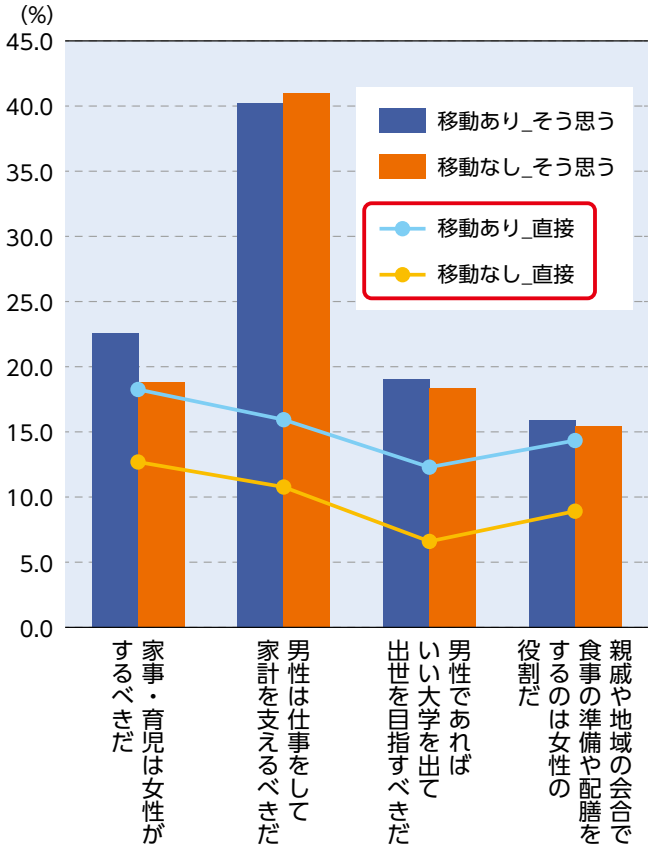
5　地域における性別役割経験

成長過程における環境が与える影響を見るために、中学入学時点における居住地と現在の居住地の移動の有無別に、20-30代女性の意識と「直接言われた」経験についてみたのが次表です。

表中、「移動あり_直接」と「移動なし_直接」を比較すると、移動あり（地元を離れた層）の方が、移動なし（地元を離れなかった層）よりも、家庭・コミュニティシーンにおいて「直接言われた」経験の割合が高くなりました。

性別役割の経験

〈中学入学時居住地域と現住所の移動有無別　20代−30代女性〉



第5次男女共同参画基本計画の「第3分野　地域における男女共同参画の推進」の中で、「近年、若い女性の大都市圏への転入超過が増大しており、また、地方の都市部に周辺の地域から人口が流入する状況もみられる」「地方出身の若い女性が東京で暮らし始めた目的や理由として、進学や就職だけでなく、「地元や親元を離れたかったから」といったことが挙げられている。」との記載がありますが、アンコンシャス・バイアスが理由の一つとなっていると考えられます。

6　メディアにおける性別役割の影響

36の測定項目について、どのような態様で経験したかを聞いたところ、「直接言われたり聞いたりした」との回答よりも「メディアで見た」との回答割合の方が高く、メディアの影響も大きいことがわかりました。

情報の発信側も、発信内容が性別による固定的役割分担や無意識の思い込みのあるものとなっていないかという観点で検討し、情報の受け手に対し、アンコンシャス・バイアスの醸成、再生産をしないようにしていく必要があると思われます。

特集2

Special Feature 2

「夏のリコチャレ2021～理工系のお仕事体感しよう!」を開催 ～女子中高生等の理工系分野への進路選択を応援～

内閣府男女共同参画局推進課

内閣府・文部科学省・一般社団法人日本経済団体連合会（以下：経団連）は共催で、2021年7月より夏休み期間を利用して、女子中高生等の理工系分野への進路選択を応援するため、「夏のリコチャレ2021～理工系のお仕事体感しよう！～」を実施しました。これは、経団連加盟企業や大学等による主に女子中高生を対象とした理工系の職場見学、仕事体験、施設見学など多彩なイベントの情報を内閣府「理工チャレンジ（リコチャレ）」サイトを活用し、積極的に社会へ発信する取組です。

今年は59団体が参加しました。企業や学術団体等のイベントや、大学の実験教室、先輩学生との交流会等のイベントがオンラインと、全国各地で実施され、今年度は6000名以上の女子中高生、大学生、保護者等が参加しました。

1. 理工系分野における女性活躍の現状

本格的な人口減少社会を迎える中、理工系分野における女性の活躍は、世界最先端の科学技術立国を目指す我が国が、持続的な成長を確保し、さらに、多様性によるイノベーションの創出によって社会の様々な問題解決を図る上で、極めて重要です。しかしながら、我が国における女性研究者の割合は16.9%※1と、諸外国に比べて低い水準に留まっています。また、大学学部生における女性比率も、理学系で27.9%※2、工学系で15.7%※2と大きな偏りが見られます。

これに対し、「幼少期に科学に触れる機会」が、その後の理科への得意意識や学習意欲獲得に繋がっている可能性があるほか、具体的な職業イメージなど進学の先にある進路について、幅広く情報提供を行うこと等が理工系への進路選択の支援において有効と考えられます。内閣府では、理工系の職業や面白さに触れられる機会を提供することにより、理工系進路選択や理工系職業に対する理解を促進し興味を喚起することで、次代を担う理工系女性人材の育成を目指しています。

※1　総務省「科学技術研究調査」（令和２年）参照
※2　文部科学省「令和２年度学校基本調査」参照

2. 開催実績

■開催期間：2021年7月～9月

■実施団体数・イベント数・参加者数

合計：59団体、113イベント、6000名以上

実施団体内訳

企業：24、大学等：22、学術団体・その他：13

■主なイベント内容

企　業

・職場見学、工場見学
・職業体験、ワークショップ、実験
・先輩女性社員との交流　等

大　学

・実験教室
・サマースクール、サイエンスキャンプ
・シンポジウム、セミナー
・女子学生質問会、オープンキャンパス　等

学術団体、その他

・実験教室、体験学習
・1日インターンシップ
・シンポジウム　等

※今年度は、新型コロナ感染拡大の影響を受け、多くのイベントがオンラインにて実施されました。イベント進行や参加者の募集についても、例年とは違った工夫がされていました。

3. 参加者の声

今までは理科が苦手だったが、今回の講座で理科に興味がでてきた。これからは理科の授業も楽しんで受けようと思う。

座学だけでなく、実習がとても充実していて非常に楽しい時間を過ごさせて頂きました。やはり、自分の目で見てふれて肌で感じるというのも知識の理解に大きな手助けとなるということを改めて感じられた絶好の機会でした。

自分は進路に迷っているので、具体的に仕事環境や内容を知ることができてとても良かったです。

理系は専門的で難しい印象でしたが、女性研究者が専門分野のことを楽しそうに話す様子に憧れました。

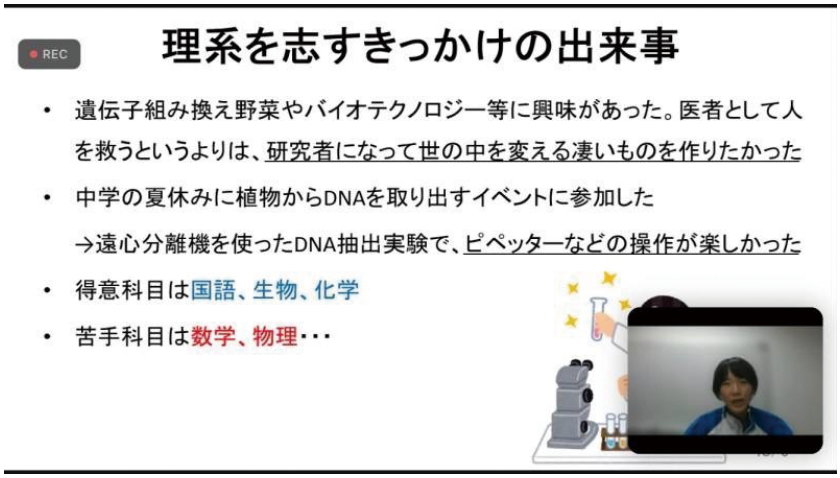
オンラインイベントに初めて参加したが、リアルの工場見学より近くの様子が見られて良かった。

登壇した女性社員がどのような経験をし、どのような経緯で進路選択をしてきたのか伺うことができたのが良かった。良い進路選択ができるよう頑張りたい。

女子学生が活躍していることや，女子学生をバックアップする体制ができていることがわかり，娘が入学できたら良いという思いが高まりました。（保護者）

夏のリコチャレ2021～化学ってスゴイ！化学会社のお仕事体験！～　（東亞合成）

夏のリコチャレ2021～理工系の仕事をのぞいてみよう～　（P&G明石工場）



第16回女子中高生のための関西科学塾（ダイセルの研究所見学と女性技術者との交流会）
（大阪府立大学、関西科学塾コンソーシアム）

「夏のリコチャレ2021」の詳細は右記リンク先を御覧ください。

URL https://www.gender.go.jp/c-challenge/2021.html

行政施策トピックス❶

G20で初となる女性活躍担当大臣会合の開催について

内閣府男女共同参画局総務課

G20女性活躍担当大臣会合について

令和３年８月26日、G20では初めてとなる「女性活躍担当大臣会合」が開催され、丸川女性活躍担当大臣・内閣府特命担当大臣（男女共同参画）がオンラインで参加しました。議長国イタリアの下、特に取り組むべき分野横断的な取組として、①STEM（科学、技術、工学、数学）、金融及びデジタルリテラシー、環境サスティナビリティ　②労働と経済的エンパワーメント、ワーク・ライフ・バランスの２つのテーマを中心に、女性の経済的なエンパワーメント（自立する力）の課題や取組等について議論が行われました。

議　事

- **オープニング・セッション**
- **第１テーマ別セッション**
  （STEM、金融及びデジタルリテラシー、環境とサスティナビリティ）
- **アフガニスタンの女性に関する閣僚会合**
- **第２テーマ別セッション**
  （労働と経済的エンパワーメント、ワーク・ライフ・バランス）
- **クロージング・セッション**

丸川大臣は、オープニング・セッションのラウンドテーブル１に登壇し、女性活躍推進に向けた日本の取組を発信し、各国から理解を得ました。

丸川大臣の発言のポイント

- ジェンダー平等は、日本政府の重要かつ揺るぎない、確固たる方針。
- 経済分野における意思決定層への女性の参画拡大と、その実現のための官民連携が重要。
- 日本では昨年「第５次男女共同参画基本計画」を閣議決定し、58の女性の登用目標を掲げた。その達成のため、例えば、中小企業への相談対応やアドバイス提供、コーポレートガバナンス・コード再改定による企業の登用目標設定、情報開示やフォローアップ、公共調達において女性活躍を推進する企業の受注増大に向けた取組等を行っていく。
- コロナの影響やデジタル化の進展に伴い、女性人材の育成や成長産業への円滑な移動支援のために再教育を行っていくことが重要。日本は、地方自治体における交付金を活用した女性デジタル人材の育成や、再就職・転職の支援に取り組む。さらに、女子中高生や大学生がSTEM分野に興味・関心を持ち進路選択ができるよう支援を行っている。
- 人生100年時代が到来すると言われている中で、人生の中のあらゆる場面において女性のエンパワーメントを推進していくことが重要。

会合の様子①

●G20 EMPOWER(※)の精力的な活動に敬意を表するとともに、来年以降もG20の枠組みの下で、G20 EMPOWERの活動が継続されることを強く支持し、来年の議長国であるインドネシアとも連携していきたい。

また、今般のアフガニスタンの情勢を受けて、アフガニスタンの女性に関する閣僚会合もあわせて開催されました。会合後に公表された議長声明においても、アフガニスタンの女性の保護に向けての呼びかけが含まれています。このほか、会合のテーマとなった議題についての議長声明のポイントは、以下のとおりです。

議長声明のポイント

＜STEM、金融及びデジタルリテラシー、環境とサスティナビリティ＞

●現状として、男女間でデジタル格差が存在し、STEM分野における女性の参加が少ないと認識。

●このため、STEM教育について、幼少期から中高生、高等教育における実施や、雇用のための訓練が重要。

●また、デジタルトランスフォーメーションの過程を通じて、新たに生まれる雇用機会を女性が最大限利用できるよう、関連施策を強化・発展する必要性について意見が一致。

●その際、固定的性別役割分担意識をなくすことが不可欠。

＜労働と経済的エンパワーメント、ワーク・ライフ・バランス＞

●未だに女性が労働市場に完全に参画するにあたって障壁が存在しており、賃金の不平等の解消を目指した取組の強化や、女性が指導的地位に就くことを阻む全ての障害を取り除くこと、女性の起業を支援することが必要。

●リモートワークの活用が女性にとって不利にならないよう対策が重要。

●無償ケア労働や家事労働の男女間における公平な分配や、育児休業の広範な適用を促進する手段・制度の促進が不可欠。

会合の様子②

会合の詳細や議長声明の全文は、下記に掲載しています。

URL https://www.gender.go.jp/international/int_kaigi/int_g20/meeting_202108.html

(※) G20 EMPOWERとは

令和元年6月のG20大阪サミットで立ち上げられた民間セクターのアライアンスであり、企業における意思決定層への女性の参画拡大を目指し、G20各国の民間セクター代表が自発的・自律的なネットワークを構築し、好事例の共有や政府への政策提言を行っています。日本の代表は、アキレス美知子 SAPジャパン株式会社人事戦略特別顧問、塚原月子 株式会社カレイディスト代表取締役の2人で、日本は副議長国を務めています。

令和3年8月20日、丸川大臣とG20 EMPOWER日本代表がオンラインで面会をし、G20 EMPOWERの活動内容が報告されました。また、G20女性活躍担当大臣会合に向けて、企業における意思決定層への女性の参画の拡大について意見交換を行いました。

面会の様子

行政施策トピックス❷

科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合

内閣府では、科学技術政策に関する意見交換の場として、「科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合」を原則毎週木曜日に開催しています。

内閣府男女共同参画局推進課

この度、男女共同参画局は、6月と7月に上記会合に参加し、科学技術・学術分野における女性研究者の活躍促進をテーマに問題提起と議論を行ってまいりました。

●令和3年6月10日（木）

この日の会合では、「第6期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえた女性研究者の活躍促進に向けた取組について」を議題として議論が行われ、男女共同参画局からは日本の理工系女性人材の育成が遅れている現状と国際的に見た日本の立ち位置について説明し、また昨年12月に閣議決定された第5次男女共同参画基本計画にてまとめられた科学技術・学術分野における女性参画拡大のための施策や成果目標について説明しました。また、女性活躍について先進的な取組を進めている名古屋大学と理化学研究所から、男女共同参画推進のための全体的な取組や女性研究者活躍促進の取組について事例発表がありました。

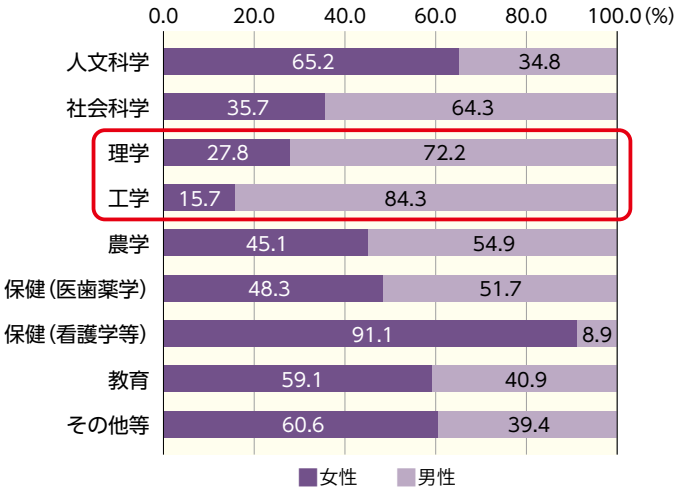
議論においては、女子生徒が出来るだけ早い小学校・中学校の時期に、身近で多様なロールモデルと出会うことの重要性などについて指摘されました。

●令和3年7月29日（木）

この日の会合では、6月に引き続き「第6期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえた女性研究者の活躍促進に向けた取組について」を議題として、女性研究者の活躍促進に向けてこれまで行われてきた各府省の施策の説明と、その効果や課題について議論をしました。男女共同参画局からは、主として2005年より展開している「理工チャレンジ」の取組について説明し、教育現場における浸透や各団体と地方自治体の連携などに課題があることを説明しました。

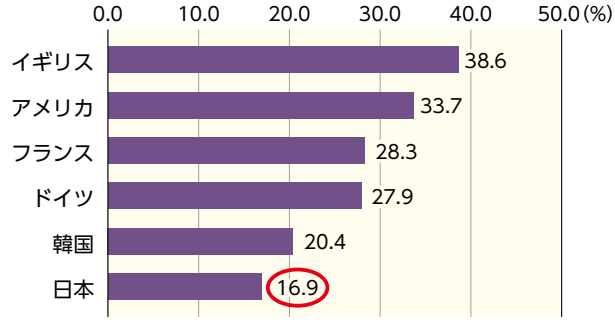
議論を経て、井上科学技術政策担当大臣からはこの課題に関し大きな危機感を持っており、きっちりとしたデータ、エビデンスに基づく議論が必要であるとの発言がありました。男女共同参画局では、今後も議論に参加し、女性研究者の活躍促進に向けて取り組んでまいります。

大学（学部）の学生に占める女性の割合



（出典）文部科学省「令和２年度学校基本統計」

諸外国の研究者に占める女性の割合



（出典）総務省「科学技術研究調査」（令和２年）、
OECD “Main Science and Technology Indicators”、
米国国立科学財団（National Science Foundation：NSF）“Science and Engineering Indicators”

「科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合」の詳細は下記リンク先を御覧ください。

URL https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/index2021.html

行政施策トピックス❸

日ASEAN女性スポーツ協力～日本からASEAN諸国と共に～

スポーツ庁国際課

スポーツにおける我が国とASEAN諸国との協力関係を一層強化するため、2017年、日本政府とASEAN諸国は第1回「日ASEANスポーツ大臣会合」を開催し、4つの優先協力分野について合意し、その一つとして「女性スポーツ」が位置づけられました。この取組の一環として、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会期間中にスポーツ庁とASEAN事務局が、スポーツを通じたジェンダー平等の推進を目的とした4日間のプログラム「ASEAN-Japan Workshop on Promoting Gender Equality in Sports」をオンラインで開催しました（協力：UN Women（国連女性機関）、事業実施機関：順天堂大学女性スポーツ研究センター（JCRWS）。

また、会期中に行われたオープンシンポジウムでは、9名のゲストスピーカーを招聘し、国内外から300名を超える方が参加しました。

プログラムの目的と成果

本プログラムの目的は、①ASEANにおける女性のスポーツ参加を促進するための各国のアクションプランを策定すること、②スポーツを通じた、リーダーシップトレーニングを実施し、ASEAN各国の若年女性のエンパワーメントを図ることの2つで、主に政策立案者向けのワークショップ（以下、WS）と、若年女性向けのWSが開催され、総勢70名以上が参加しました。

政策立案者向けWSには、ASEAN加盟各国の中央政府関係者、地方政府関係者、国内オリンピック委員会（NOC）の女性スポーツ委員会から推薦された参加者1名ずつが名を連ね、実践的な意見交換が行われました。WS最終日には各国毎に1つずつ、実行可能なアクションプランのアイデアが発表され、参加者からは、「これまでこのようなWSは実施したことがなく、非常に有意義な時間であった」との感想を得られました。

若年女性向けWSには、主にスポーツの分野で活躍する次世代リーダーが参加し、各国政府及びUNESCOユース＆スポーツタスクフォースから25名が選出されました。こちらのWSでは、主にスポーツを通じた社会課題分析に基づく政策提案のスキルに焦点を当てたリーダーシップトレーニングを実施しました。WS中には、実際に政策立案者に若年女性自身が声を届ける、アドボカシーの実践も行いました。

全体を通して、参加型アプローチでWSが展開され、参加者同士が協力して作業をする場面や、参加者が自ら考え意見を出し合う場面が多く見られました。また、様々なオンラインツールや運動、アイスブレイキングも活用し、参加者同士の交流を促しました。

ASEAN諸国とともに、スポーツにおけるジェンダー平等の実現を

本プログラムは、東京2020大会開催が決定し、日本政府がスポーツを通じた国際協力を強化する中で実現した事業です。東京2020大会が終了した今、大会レガシーとして、日本のスポーツ界でも「多様性」と「調和」について議論を継続し、様々な施策を講じながらスポーツにおける、またスポーツを通じたジェンダー平等の実現に向けて努力していきます。

本プログラムを通じてスポーツ界からアジアのジェンダー平等社会に向けて共に歩んでいく日本とASEANの連帯が強固になりました。日ASEANスポーツ会合においては、本プログラムで各国が発表したアクションプランをフォローアップするなどして、女性スポーツを通じた日ASEANの一層の関係強化に取り組んでいきたいと考えています。

News 01

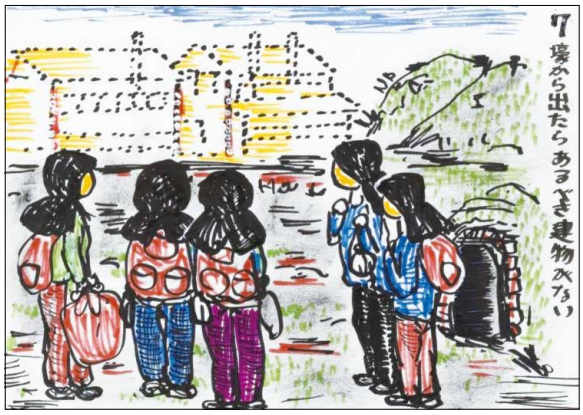
女性デジタルアーカイブシステム「女性史年表」更新及び「戦時下勤労動員少女の会資料」公開について

文部科学省

国立女性教育会館（NWEC）では、他機関・個人から寄贈・寄託された原則として、非刊行の史・資料を女性アーカイブセンターに所蔵しています。その資料の目録とデジタル画像を「女性デジタルアーカイブシステム」で提供しており、「近代～現代女性史年表」を掲載しています。このたび2019年までの年表を新たに追加しました（※）。

また、新規資料群として、「戦時下勤労動員少女の会資料」を公開しました。戦争末期の1944年から、中等学校・国民学校高等科に在学していた少女たちは、兵器工場などに動員されることとなりました。

「戦時下勤労動員少女の会」は、太平洋戦争開戦五十周年にあたる1991年に発足。勤労動員の実態調査、記録文集の収集、愛唱歌の収集、勤労動員の記録集の作成を行い、1996年『少女たちの勤労動員の記録：女子学徒・挺身隊勤労動員の実態』を作成、翌1997年にはその増補『記録－少女たちの勤労動員：女子学徒・挺身隊勤労動員の実態』を出版しました。資料は、同会に関するもの、集められた手記、アンケート、手紙など、約200件です。デジタル画像で見られるものもありますので、ぜひ御覧ください。



「女性デジタルアーカイブシステム」のアクセスはこちら

URL https://w-archive.nwec.jp/il/meta_pub/G0000337warchive

※「近代～現代女性史年表」は上記HPの左側「年表検索」よりご覧いただけます。

News 02

「困ったら 一人で悩まず 行政相談」－10月18日～24日は行政相談週間です－

総務省

行政相談は、国民の皆さまからの行政に関する苦情、意見・要望を受け付け、その解決や実現を促進するとともに、行政の制度や運営の改善に生かす仕組みです。総務省では、毎年10月に「行政相談週間」を実施しており、令和3年度は10月18日（月）～24日（日）に実施されます。今年は、新型コロナウイルス感染症に関連する相談活動や外国人からの相談対応のほか、令和3年の行政相談委員制度60周年に関連した広報活動に取り組みます。

さらに、行政相談週間を中心に、テレビ電話等のICTの活用や、万全の感染防止対策の取組を行いながら、国の行政機関、地方公共団体や弁護士、司法書士などの各種専門家が参加して、行政に関する苦情、意見・要望などをワンストップで受け付ける、一日合同行政相談所を全国各地で開設します。相談は無料で、秘密は固く守られます。この機会に、「行政相談」をぜひご利用ください。

令和3年度
行政相談ポスター

詳しくは、こちらをご覧ください。

URL https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/hyouka/soudan_n/shukan.html

Info 01

「集まれ！　防災女性職員とその応援団」@ぼうさいこくたい2021 参加者募集！！

内閣府

内閣府では、国民全体で防災意識を向上することを目的に、2016年から「防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）」を実施しています。今年は「～震災から10年～つながりが創る復興と防災力」をテーマに、11月6日（土）・7日（日）、岩手県釜石市（現地とオンラインのハイブリット形式）で開催予定です。

ぼうさいこくたい2021では、防災に携わる省庁、民間企業、NGO/NPO団体、大学等によるテーマ別セッション、ワークショップ、現地展示等があり、内閣府男女共同参画局も、よんなな防災会女子部（※）とともに、オンラインセッション（Zoomで実施予定）を行います。テーマは「集まれ！　防災女性職員とその応援団」。地方公共団体や関係省庁で防災に関わる女性職員等とその応援団を対象に、組織の枠を超えてネットワークを作りましょう。皆様のご参加をお待ちしています！！

「集まれ！　防災女性職員とその応援団」

対　象	地方公共団体、省庁等の防災・男女共同参画・その他災害対応に関わる部局の職員、地域の防災リーダー、防災士等 ※テーマ別ワークショップ「①これって私だけ？　防災女性職員の本音トーク」の参加者は地方公共団体や省庁で防災に関わる行政の女性職員（元職員も含む）限定。
方　法	オンライン（定員100名）
日　時	11月7日（日）　10：00～11：30
申込方法	内閣府男女共同参画局HP内申込みフォームより お申込みください。 https://www.gender.go.jp/policy/saigai/index.html
主　催	内閣府男女共同参画局、よんなな防災会女子部

よんなな防災会・よんなな防災会女子部とは？

よんなな防災会とは、防災に関心のある47都道府県の公務員をはじめ、地域防災の担い手や民間企業に勤めている社会人・学生（中学生～大学院生）等が幅広く参加し、防災・減災をキーワードに繋がりを深めていく会。Yahoo!防災速報やJリーグ社会連携（シャレン！）「ソナエル東海」等様々な機関とも連携しながら防災の取組を進めている。女子部は令和3年2月に発足し、女性や男女共同参画の視点からの防災・減災をテーマにした勉強会等を行っている。

よんなな防災会HP
https://47bosaikai.com/

よんなな防災会女子部Facebook
https://www.facebook.com/groups/728119984567150

BOSAI よんなな防災会

編集後記
Editor's Note

夕方のニュースを見ていたらジェンダーレスな衣類についてのアパレルメーカーの取組が紹介されていました。従来の男女で分けるのではなく男女兼用で作られており、番組では男性がパンツの上にロングスカートを重ねて着用している様子が紹介されていました。性別に関わらず自分が好きな服を着られるのは良いことだと思いました。私もメンズ服のデザインが好きでシャツなどを購入したりしますが、肩幅や着丈は合っても腕が長すぎたりするのが残念だと感じていました。男女の区別なくサイズ展開も豊富になれば、これから服を購入するときの選択肢が増えてますます買い物が楽しみになりそうです。

さらに、ニュースを見て知ったのですが、男女兼用にすることで布地のロスも防ぐことができるのだそうです。SDGsへの貢献にもつながり、多くのアパレルメーカーでこうした取組が広がればいいなと思いました。

【意外に着道楽な編集部員I】

Kyodo-Sankaku

月刊総合情報誌
「共同参画」10月号

https://www.gender.go.jp
https://www.facebook.com/danjokyodosankaku

第149号	2021年10月8日発行
編集・発行	内閣府 〒100-8914 東京都千代田区 永田町1-6-1 内閣府男女共同参画局 総務課
電　話	03-5253-2111（代）
印　刷	株式会社アイネット
表紙デザイン	株式会社マーグラ

総務省
困ったら一人で悩まず
行政相談
令和3年 行政相談委員制度は60周年
Hello Kitty
行政相談マスコット
キクーン
社会福祉
医療保険や年金
道路や公共施設
役所の手続き
のことなど、お気軽にどうぞ。
ご相談は、お近くの行政相談委員へ。または、下記の番号まで。
総務省行政相談センター
きくみみ 0570-090110
インターネットでの相談受付もOK
行政相談受付
相談無料・秘密厳守
１０月を中心に、全国各地で
一日合同行政相談所を開設します！
男女共同参画に関する施策・制度についてのご相談も受け付けています。
詳しい情報は総務省ホームページへ
総務省・各府省行政苦情相談連絡協議会